

おかしなバッグ Bolsitas raras

タイトル：おかしなバッグ Bolsitas raras
著者：ロサ・ティツィアーナ・ブルーノ Rosa Tiziana Bruno
絵：フランチェスカ・レイネロ Francesca Reinero
出版社：アルヒーベ Ediciones Aljibe
出版年：2010年
ページ数：50頁
言語：スペイン語
読者対象：児童（幼児から）
レポート作成：井原美穂

概要

この世にやってきたすべての恐怖心は、かたすみけにみな身をよせあい、ちぢこまっている。しかし、その恐怖心はどこで生まれ、どこで死んでいくのだろうか。恐怖心はなにでできているのか。それらのことは、なにもわからない。ただひとつ確かなのは、最も悪い瞬間に、恐怖心が表に出てくることだ。本書は、2010年の世界哲学の日にパリのユネスコで発表され、出版社のホームページでも配信されている。

あらすじ

この世にやってきたすべての恐怖心は、最初は小さく、隅っこでちぢこまっています。ではその恐怖心は、どこから生まれてどこで死んでしまうのでしょうか。それについて、まだなにも分かっていませんが、いちばん間の悪いときに恐怖が顔を出すのは確かです。でもご安心を。恐怖のタイプによって色の違う、恐怖をしまっておけるいろいろな小さなバックがあるのであります。

小さな恐怖の入ったバックは黄色で、恐怖をしまっておけるのは短い間だけ。例えば、歩道から落ちてしまったり、うんちを踏んづけてしまったり、シャツを汚してしまったりという恐怖に。

散歩用のバックは、かわいらしくておしゃれでピンク色。自分がかわいらしくないとか、流行おくれかもという恐れをしまっておきます。

旅行の恐怖を入れるバックは青。出発の前の日の夜に、勝手に開いて恐怖が出てきて、悪い夢をもたらします。雲の中で飛行機がバランスを崩してしまうとか、かばんが壊れてしまうとか、薄暗い道や、知らない言葉で話しかけられることとか。でも時に、そんな恐怖は必要がないときもあります。旅行の恐怖とは、旅が終わると別れられます。

学校での恐怖はロッカーにしまっておくこともできます。でも要注意。誰かがロッカーをあけてしまって、恐怖を外に逃がしてしまうことがあるからです。

もっとも大きい恐怖は、どこにもおさめることができません。ですが、そのままの状態、洋服をつるすように、ベランダのバルコニーで洗濯物のようにつるすことができます。でもこれも、要注意。風にさらわれることがあるから。

最後に黒いバックに入っているのは、夜の恐怖。でもこれは、ベッドの足元においておいたり、窓の外に出しておくこともできます。夜中にトイレにいきたくなっても、じつとがまん。でも実は、夜の恐怖をすべてしまっておくバックは、まだ作られていません。すべての恐怖をしまっておけるバックがあるということも、信じないでください…… だって恐怖の正体は無なのであります。

所感

恐怖心の克服を、就学前の幼児にもわかりやすいお話として示した絵本は少ない。小さな子どもが感情をコントロールすることは難しい。うれしいときには大きな声で笑ったり、飛び跳ねたりと簡単に意思表示できるが、悲しみや恐れなど負の感情は、言葉にするのも、克服のために行動をするのも難しいのではない。中でも恐れは、子どもにとって、何がどのように怖いのか表現をするのも、我慢することも難しい。大人の立場からも、子どもが何か分からないものに恐怖や不安を持っているとき、こうすればいいなどアドバイスはしにくい。しかしそんなとき、この絵本に書いてあるように、こわいと思う気持ちはバックにしまっておこう、そんなふうには、子どもの恐怖心を軽くしてあげることができるかもしれない。

恐れには種類があり、それによってバックの色やサイズが違うという発想がおもしろい。ささいな恐れには、バックの色は淡くサイズも小さく、強い恐れはサイズが大きくて色も濃いようだ。散歩の恐れを入れるバックは

かわいらしいピンク色と、女の子が喜びそうな設定だ。一方で、子どもに一番怖いと思われる「夜の恐怖」のバッグは、暗闇のように黒く、笑みがほとんどないイラストにもぞくっとさせられる。

子どもが怖がるものとして例えをあげているせいか、登場する恐れはいずれも、大人にはささいなものばかりだ。子どもは、成長するにつれて「恐怖を楽しむ」という気持ちも育ってくる。遊園地のお化け屋敷に行ったりホラー小説を読んだりすることが、その代表だ。小さな子どもがおびえているうちは、恐怖はバッグにしまっておいて、ある程度大きくなりゆとりが出てきたら、開いてみてもいい、そんなふうに子どもの恐怖心を軽くしてあげるのが、この本の役割になるだろうか。最後の一文「恐怖の正体は無なのですから」は、「恐怖は自分が作り出すものなのだ」と、子どもに教えることばなのかもしれない。

本書で残念なのは、恐怖が具体的な例とそうではない例があることだ。例えば学校の恐怖にはどんなものがあるのか、具体例がない。また恐怖の種類によってページの色も変わるところはおもしろいが、見返しのイラストや暗い色彩のページは、恐怖がテーマなだけに子どもが怖がらないだろうかと少し懸念する。子どもに恐怖心が芽生えるのは、幼稚園くらいの頃だろうか。本書はそのくらいの年齢の子ども向きに、母親のひざの上など安心できるところで読み聞かせてもらいたい。

出版社のウェブサイトによると、本書は2010年11月にフランス、パリでの「世界哲学の日」にて紹介された。内容の一部は複数の言語の動画で配信されている（下記参照）。

（スペイン語版）"Bolsitas raras"

<http://www.youtube.com/watch?v=7Qq55CmHJrU> [1]

（イタリア語版）"Strani sacchetti"

<http://www.youtube.com/watch?v=bqm3g7HB794> [2]

（英語版）"Strange Bags"

<http://www.youtube.com/watch?v=QdtTdbGtwDo> [3]

（フランス語版）"Sacs etranges"(1つ目のeの上にアクサンテギュ)

<http://www.youtube.com/watch?v=MZxUyMBdbB0> [4]

作者ロサ・ティツィアーナ・ブルーノはイタリア出身で、中学校の教師、社会学者としても活躍。スペインでの作品の出版はこれが初めて。本書を使用した子どもの情操教育の方法を、ウェブサイト上で公表している。

<http://www.spaziodi.it/rosatizianabruno/progetti.asp> [5]

Source URL: <http://www.newspanishbooks.jp/read-report-jp/bolsitas-raras>

Links:

[1] <http://www.youtube.com/watch?v=7Qq55CmHJrU>

[2] <http://www.youtube.com/watch?v=bqm3g7HB794>

[3] <http://www.youtube.com/watch?v=QdtTdbGtwDo>

[4] <http://www.youtube.com/watch?v=MZxUyMBdbB0>

[5] <http://www.spaziodi.it/rosatizianabruno/progetti.asp>